令和５年度　第５回まちづくりミーティング

令和５年10月26日（木）18時30分～
金石会館　３階ホール
大徳、金石町、大野町校下（地区）

(1) 市長あいさつ

【村山金沢市長】

皆さん、こんばんは。平日夜の遅い時間にお集まりをいただきまして、ありがとうございます。

３日後の10月29日には金沢マラソンが開催されるということで、各応援スポットの運営にご協力をいただくこと、また、交通規制などもありまして、ご迷惑をおかけするということもありますが、ご協力いただいていることに感謝を申し上げたいと思います。

さて、今回開催させていただきますこのまちづくりミーティングも、コロナ禍ということもあってなかなか開催することができませんでした。昨年度につきましては、金沢の未来を語るまちづくりミーティングと称しまして、現在策定中の新たな都市像について皆様方からのご意見を伺う、そのような機会として全ての校下を回らせていただきました。

今年度は、従来の形に戻っての開催ということで、各地域での課題をともに共有し、そして解決策を考えていく、そのような場とさせていただきます。

事前に提出いただきました課題を拝見いたしますと、いずれも当該地区、それぞれの地区において大事な課題というように思っております。すぐに解決できないところもあるかもしれませんけれども、一歩でも前に進むような、そういう実りのあるミーティングにしたいと思っております。それぞれの地域課題、そして共通課題、その後の質問事項などについても、忌憚のないご意見をいただければと思っております。

本日はよろしくお願い申し上げます。

(2) 地域代表あいさつ

【金石町校下町会連合会　会長】

皆さん、大変お疲れのところ、このまちづくりミーティングにご出席賜りまして、ありがとうございます。

今日は、村山市長をはじめ、金沢市のそれぞれ関係部局の幹部の方々に勢ぞろいしていただきましたし、また、市議会議員の方もお見えでございます。また今日は大徳、そして大野、金石の３地区のそれぞれの地域のお世話をしていただいている要の方々がご出席いただいているなという感じを受けます。皆さん方それぞれ、その地域にあって影響力のある方々ばかりでございますけれども、今日のお話をお聞きになられて、地域に持って帰っていただければと思います。

どの地域も、少子化、高齢化、あるいは人口減少といった社会の流れの中で、それぞれの地域課題を抱えながら、各種活動をしていらっしゃるんじゃないかと思っています。そういう地域の事情、それぞれ同じようなことも抱えておりますけれども、やはり、いかに生活の利便性を高めるか、暮らしやすさをどうやって維持向上していくかという、そういった大命題の中で、行政とともに我々としての活動があるわけでございます。一方で、社会経済の発展、成長というものも、これまた大事な要素だと私は思っています。

その活力の創出ということも含めて、昨年の３月13日、村山さんが市長に選挙で当選されまして以来、やがて１年半強がたちましたけれども、ここで共創文化都市というキャッチフレーズで、新たな都市ビジョンを金沢市が策定されています。これには大変広範な分野にわたる、いろんな政策が網羅されております。今日は時間の制約がございますので、そういったことに触れる時間はないのかなと思いますけれども、ぜひともこれからの機会を捉えて、そういった金沢市のこれからの政策的な構想、あるいは目指すべき姿を皆さんもお知りになられたらいいんじゃないかなと思っています。

金石、大野、そして大徳が抱えておる課題は、結構多うございますけれども、普段どんな活動をしているんだということもおっしゃっていただきながら、金沢市のほうからもいろいろと示唆に富んだお話を承ればいいなというふうに思っています。

それと、先ほど市長もおっしゃったように、こういうまちづくりミーティングは、コロナの関係で、特に村山市長になられてから一度もなかったわけで、市長が何を考えていらっしゃるのかとか、できれば村山市長の人柄とか、貴重な機会なので、私はぜひともそういったものにも少し触れていただけたればなと思っています。

皆さんも、市長の人となりというか、こういう方なんだということをこの機会を捉えてお分かりいただければ、この会の開催された意義があるというふうに思っています。

いろんな思いがございますので、限られた時間とは申せ、有意義なひとときが過ごせますよう心から念じまして、私の冒頭に挨拶に代えます。

⑶ 地域課題の説明、課題に対する市の方針等の説明、討議

①「消防団のなり手不足をどうするか」（大徳）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、

レジュメを参照願います。

【大徳地区連合町会】

ちょっと補足してお聞きしますけれども、自分も若いとき、二十歳ぐらいから消防団に15年ほどいて、ずっとポンプ車を運転していました。当時と今とは社会形態が違ってきていますし、ポンプ操法というのが団員の負担になるのは間違いない事実。あの時代でも自分らは３番員、４番員といったら一番走らなくてはならないような当時の番数ですけれども、いつも１位になれないけれども、毎晩毎晩練習してきました。

家庭が大事か、職場が大事か、ボランティアが大事かという３つの中で、今の若い方たちは家庭が一番みたいな気がしてならないんですけれども、そんな中で、ポンプ操法に結構時間が取られる。こんな場だから提案するんですが、例えば第３消防団だったらどことどこが今年は出るとか、そんなような程度にしたら駄目なのかね。

消防本部にしてみれば技能が落ちるんじゃないかというような危惧もあると思うので、それはそれで団員が出やすいようなときに、ポンプの操作とか、火災現場へ行ったらどんなことをするとかは、別の機会を設けてもいいんじゃないか。全国大会があることは自分も分かっていますけれども、それが重要になって団員がなかなか増えないのかなと思うので、ちょっと加えさせていただきます。

意見として捉えていただきたいと思います。よろしくお願いします。

【納谷消防総務課長】

今ほどお話がありましたポンプ車操法大会、これについて全国的にもやはりいろいろと変えてきているところもありますし、いろんなご意見があるところです。

実は、団員不足、団員減少ということで、消防団連合会のほうでも大変危機感を持っておりまして、活性化委員会という、団員を集めるにはどうしたらいいかという委員会があるんですけれども、一回アンケートを取ってみようということで、全部の分団さんに40歳以下の方のアンケートを実施させていただきました。

そして多かったのは、やはりポンプ車操法が負担であるということと、その他の行事も多いということで、消防団に入るといろいろと出なくてはならないことが多いという結果が出ていまして、今後真剣に議論していくというところにたどり着いておるところです。

議論の内容はあまりつまびらかにはできないですけれども、おっしゃったとおりで、他の都市では、もっと簡単でいいんじゃないか、火を消せればいいんじゃないかという考え方もあります。一方で、金沢の消防団の歴史の中では、あのポンプ操法こそが一番大事という意見もあります。

【大徳地区連合町会】

分かりました。それに命をかけている分団もあるので、熊野市議も大徳分団に入って裸放水までしているし、よく分かってくれていると思うけれども、市の言われることはよく分かったので、出たいところが出ればいいんじゃないかという提案です。

【納谷消防総務課長】

ありがとうございます。よく考えます。

【村山金沢市長】

これまでのまちづくりミーティングの中では、私の出番は最後にまとめるというのが通常でしたけれども、冒頭、鶴山連長からの話でたびたび話を、ということですので、少しお話をさせていただきたいと思います。

消防団員だけでなくて、町会の担い手であるとか、あるいは児童館、さらには学童をどうするかとか、あらゆる分野で担い手不足が大変だと思っています。

人口構成としては、団塊の世代の次の世代がぽこっと抜ける。あるいは消防団についても団塊ジュニアの次の世代がいない。そんなことでどんどんと少なくなっていくということに加えて、コミュニティの意識のところが大きいかなというように思いました。

一方で、消防団員の充足率については、分団ごとに充足率の差が大きいと思っています。特に充足率が低い団体があることによって、金沢市全体の消防団員の充足率が低下するということもありますので、この辺りどのように各分団の充足率を上げていくか。特に低いところについては、その上の消防団のほうとも連携をしながら、どのような方策があるか、あるいはうまくいっているところがどのように集めているかということは研究していき

たいと思います。消防団連合会との関係になっていくんですけれども、共にこの問題を考えていきたいなと思っています。

ポンプ車操法の関係についても、これも消防団連合会がどのように考えるかというところがまず第一ではありますが、全国的な傾向とか、うまくやっているところがあるかということは、我々のほうでも情報が入手できますので、その辺りを共有していきたい。

ポンプ車操法大会も、大会のためにやるということがまずよくないところで、ポンプ操法の基本的な動作を身につけることがまず第一の課題だと思います。その上で大会があるということですので、その辺りも優先度を考えながら話合いをしていきたいと思います。

②「①人口減少、高齢化　②「まちづくり」は何の為？　③海岸道路の安全について」（金石町）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【大徳連合町会】

今まで聞いていたんですけれども、全く目新しいものはない。どこでもやっているようなことで、それに対して何か実効性があるのかなと、すごく疑問に思うんですけれども、いっそのこと、さっき言われていた消防団員が足らないと。こうやって町家をお金を出して若い人にやってもらうと。こんな事業、別々にやらないで、一緒にそういう事業を考えるのも一手じゃないかなと思うんですけれども。

【村角都市政策局長】

都市政策局のほうから、庁内横断的に様々な施策の相互調査を図っているという立場でお答えをさせていただきます。

地域の課題を解決する際に、一つの部署ではなくて様々な視点から多角的に考えて、横断的に連携をして取り組むべきではないか、さらに、これまでの旧態依然とした考え方ではなく、新しい視点も入れるべきであるというご発言だったと理解をしています。

そのような意識を全く持たずに取り組んでいるわけではございません。先ほど申しましたように、私のポジションとしては、そういった庁内調整を図っていくポジションでもございます。それぞれの部署で、まずは専門的に考えることはもちろんですけれども、庁内

の声を横断的に聞きながら意見の調整を図っていく。それから新しい施策として打ち出していく。そういったことを今後も心がけていきたいと思います。

先ほど仰せになられた消防団であったり、町家であったり、そういったものに対するアイデアは今まだ持ち合わせておりませんけれども、まずはそれぞれの部署でじっくりと考え、連携すべきは連携をして、新しい施策として今後展開をしていければと考えておりますので、今後ともどうぞまたよろしくお願いします。

【金石町校下町会連合会】

今、人口流入やまちづくりは誰のためとか、いろいろ出ていましたけれども、あくまでも町のブランディングというのは、まず町の人が積極的に主体性を持って取り組む、それを市のいろんな制度でご支援いただくというのがとても大事なのかなと思います。そういう面では、隣町から見ていると、大野さんはとてもすばらしいなといつも感心させていただいているんですけれども。

その中で、金石でもいろいろと町の方に聞くと皆さんお困りなのが、情報が全然伝わらないということなんですね。例えば我々がまちづくりで様々なイベントをやっていて、回覧板で回させていただきます。それと同時に、ＳＮＳ、インスタとかいろいろ発表させていただきます。どちらが集客があるかというと、インスタとかですね。実は2,500部、各家庭に一件一件お配りをするんですが、全く伝わらないですね。

つまり横の情報を何も知らない。皆さん、何で教えてくれないの、何で私たち知らないの、全然知りませんと。今は情報を取ろうとすると、周りからたくさん情報が来るので、自分から取りにいこうという方はいらっしゃらないと思うんですよ。その中で、若い方は回覧板をほとんど見ない。そうなってくるといろいろ防災面とかコミュニティとか、いろんな問題がどんどん起きていくなと。皆さんも知らないので協力できない、参加できないという方々がたくさんいらっしゃるんですね。一人一人のお話を聞くと、もっとこんなことをすればいい、私こんなことしたいという方がたくさんいらっしゃるんですよね。

そこは我々なかなかできないですね。そういう情報の共有、そこを行政のほうのお力で、リーダーシップを持って取り組んでいただくとか、そういったことというのはちょっと難しいかなというのを常々考えております。

ちょっと今回の趣旨とは違いますけれども、そこら辺をお話しいただければなと。

【村角都市政策局長】

なかなか情報が伝わらない、情報の共有もできないと。それは町の情報もそうだし、もしかすると市政の情報もなかなか伝わってこないというお話かと思います。

情報の伝え方というのはなかなか難しいものです。我々からすれば伝えている、発信していると思うんですけれども、受け取る側にとってみれば不必要な情報、無駄な情報もありますし、本来その方が欲している必要な情報というものがなかなか見つからない。

情報を出したときに、その中から自分の好きな情報を見つけるというのも非常に難しくなってきています。最近ではＳＮＳ、インスタグラムですとかＬＩＮＥですとか、様々な情報手段が出てきています。市の公式ＬＩＮＥを登録されている方も非常にたくさんおられます。一方で、手段はたくさんありますけれども、どれがターゲットに一番効果的で、ダイレクトに情報が伝わるのか、共有していただけるのか。情報伝達の手段というのは日々進歩していくと思いますので、そういった進歩にも合わせて、我々もどういったことが可能なのか、日々新たにしながら検討していきたいと思っております。引き続きいろんなご助言をいただければと思います。

【村山金沢市長】

様々な課題をいただきました。

今ほど最後にいただいた、情報を我々が伝えたい人に伝わらない問題と、伝えてほしい方に届かないというところ、日々本当に課題として考えています。我々もこれからどういう広報戦略をしたらいいかということを考えています。

その中では、例えば子育て世代に対しては、そこに向くような情報にするとか、あるいは一般的なＬＩＮＥについても、毎日市のほうから情報を出しているんですけれども、我々が出したい情報が本当にたくさんある中で、文化に偏り過ぎていないかとか、その辺りの区別をしながら出しております。そのほかに、最近は例えば動画、ユーチューブなどを御覧になられる方に、その世代、関心のあるところに刺さるような動画をこちらから配信するとか、そのようなことも考えていっております。検討は続けていきたいと思うんですけれども、幾つかの種類でやらなければいけないなということを広報の担当課のほうでは考えていると思っています。

そして、町のブランディングであるとか、また先ほど雇用を創出できる企業の誘致などのお話もいただきましたけれども、どんな企業を誘致するべきか、あるいはブランディン

グもどうしていくかというところ、大きな課題になっていく。そして、これを行政が決めていくというのは、やはりちょっと問題があるかなと思っています。現在、大野町と金石町のほうで地域おこし協力隊を募集しています。外からの目線、中からは見えない、そして、どのようなところを特徴にして、それをＰＲしていけばいいか。これは外からの目線に頼ることもありかというように思っています。

そして、地域おこし協力隊の方々には、我々の持っている、どういうツールがあるか。今、行政からの回答としては、様々なツールがありますよというお答えになってしまいましたけれども、それらを組み合わせて検討し活用する能力も身につけていただきたいと思っています。

そういったところも踏まえ、外からの目線とともに、中の人たちがどうしていきたいかということも話し合っていただくことは、地域おこし協力隊の大きな活用の方法だと思っています。我々のほうでも、その特徴も見極めながら、地域おこし協力隊の相談にも乗っていきたいと思っていますので、誰が来るかがまだ決まってない中で何とも言えないんですけれども、ぜひ、その方もまちづくりの中へ取り込んでいただいて、いろんな話をしていただければと思っています。

③「１．こまちなみ保存区域を活用したまちづくりのこれから、
２．『発酵食のまち　金沢・大野』をタイトルにしてインバウンド客・観光客・県民や市民にＰＲする」（大野町）
「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、
レジュメを参照願います。

【坂本土木局長】

私のほうからは、道路整備に対するお話をさせていただきたいと思います。

ご説明いただきましたこまちなみ保存区域内にあります市道におきまして、平成24年度から側溝整備事業に着手しております。地域の皆様のご協力によりまして今年度でようやく完了予定となっております。

今後につきましては、次年度以降、道路の修景に係る詳細な測量等を実施の上、関係部署と連携いたしまして設計に着手してまいりたいと考えております。

今後とも地域の皆様方のご意見を賜り、調整を図りながら町並みに合った道路修景整備

を進めていきたいと考えております。また、その際には、いろんな形でご相談させていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【東文化スポーツ局長】

私のほうからは、大野６丁目区域のこまちなみ保存区域の指定についてでございます。

こまちなみ保存区域は、地域の特色が感じられる歴史的町並み、こういったものが集積する区域を市民の皆様と一緒になって守り育てるというものでございます。そのため、区域の指定につきましては、手を挙げたらすぐ指定されるとか、あるいは市が一方的に指定するというものではございませんで、地元にお住まいの皆様とともに、守るべき範囲はどこかとか、いろいろお話合いをしながら双方の合意の上で決定をするものでございます。

区域の指定までには、まずは勉強会の開催や住民の意向の把握、保存計画の策定、そして何よりも地元の皆さんの合意を踏まえた指定区域の決定。そして、その区域を踏まえた保存基準の運用を開始するという、そういう流れでございます。

地元として、新たな区域の指定に向けたご要望、もし町会長さん等から６丁目はやってみたいということであれば、歴史都市推進課のほうで改めて当該区域の現況等の確認をしました上で、ご相談させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【古谷産業政策課長】

ポスターを制作しまして、『発酵食のまち　金沢・大野』、こちらをＰＲしたいというお話でございました。

ポスターの制作につきましては、私ども産業政策課のほうで食文化の振興を担ってございます。こちらで金沢の食文化推進事業補助金というもの、補助率２分の１、上限30万円、こちらのほうが活用可能だと考えてございますので、ご相談いただければと思います。

また、作成しましたポスターの掲示ですが、金沢駅観光案内所等、観光案内所に掲示できるほか、市観光協会の会員の宿泊施設等にもご相談することが可能かと思います。

本市においての観光客や県民、市民に向けて、『発酵食のまち　金沢・大野』のＰＲをぜひ協力して進めていきたいというふうに思っております。

もう一つ、既にある建物を活用したリノベーションが行われまして、レストランやブティックホテル等の新設が加わればよいという協議事項でございます。

本市としましても、本地区につきましては、古い醤油蔵を利用して若手工芸作家のギャ

ラリーや工房が開設されるなど、独自のまちづくりに取り組んでいただいていることで、ありがたく思ってございます。多くの発酵食品の製造が盛んな地として、今も本市の食文化を支える地区であると認識しております。

ご提案の食文化に関する取組につきまして、現在、何かこういう情報があるかということではございませんが、今後こういった情報がございましたら、ぜひ共有をさせていただければというふうに考えてございます。

【東文化スポーツ局長】

既にございます建物を活用したリノベーションにつきましてですが、これまで大野町区域でも昭和25年以前建築の建造物、いわゆる金澤町家につきまして、金澤町家再生活用事業、先ほど金石さんのところでも説明いたしましたが、この事業を活用して、令和３年度にチロルさん、それからワンコイン食堂さんの店舗に改修した事例もございます。

こまちなみ保存区域以外でも、町家を店舗や宿泊施設に改修する場合もこの事業が活用できますので、ご希望がございましたら歴史都市推進課にご連絡いただければと思っております。よろしくお願いいたします。

【大野町町会連合会】

まず一つは、実際にポスターのことで話ししようと思いますけれども、金沢というのは国外に行くととても有名なんですよね。自分で思っている以上に。

先月、アメリカの食品の展示会に行ってきましたけれども、料理人の人が、おまえはどこから来たかと。金沢から来たと言うと、行ったことあるというんですね。感触だけですけれども、３分の１ぐらいは金沢を知っている。あそこは物がおいしいということを言うんですね。僕自身もびっくりしまして、料理人の間ではかなり有名だということを逆に教えてもらったというか。

そういう意味では、このポスターというのは、金沢の人とか県内の人にポスターを貼って示したいということではなくて、もう少し広いニュアンスで、発酵食品というと東京じゃなくて京都じゃなくて金沢ですよということを強く言いたいんだということを１点つけ加えさせてください。ですから金沢市に要望するのも、もう少し広い活動を考えてくださいというのがお伝えしたい趣旨です。

それから、レストラン誘致の相手を市の担当者と一緒に営業活動してほしいというの

は、金沢市内なり県内なりの個人レストランを呼んでくるのは自分たちでできます。そういうことを市にお願いしているのではありません。それよりも、ミシュランの星つきか、あるいは大箱の50席ぐらいの洋食のレストランがこちらの地域にあれば、地域の特性が際立ってくるというふうに思うわけですね。それができるのは、多分県内資本ではなくて県外資本のほうがその可能性があるんじゃないかなという思いで、セールスを一緒にしてくださいというのは県外に対して、私も身をもって行きますので、一緒に。お金を出してくれと言っているわけじゃないです。知恵を貸してくださいと。私どもが県外のほうに行って、こんな者でございますと名刺を出したって、全然門前払いですよ。それが金沢市の名前で行けば、話だけは聞いてもらえる。あと、するかしないかは企業ベースの話ですから、いろいろ山はあるかと思いますけれども、とりあえず入り口に入るまでガイドしていただけませんかというのがこの趣旨でございますので、ぜひそこだけは、先ほどの広い視点で見てください、海外に売りたいんですという話と一緒に、金沢市にも、町家流通をどこか地元でやっていますという、そういうレベルの話をお願いしているのではありませんので、そこをお酌み取りいただきまして、応援していただければありがたいと思います。

【古谷産業政策課長】

発酵食品につきまして、海外へしっかりＰＲすることも必要だと感じてございますので、ここは食文化の振興、観光と一体の話かなと思っておりますので、またそういったことにつきましても、しっかり考えていきたいと思います。

また、レストランの誘致に関しましての一緒に営業活動というところでございますが、今お話を聞きまして、プランもあるように感じております。また、この件につきましては少しご相談をさせていただければと。その中で、どのようなことができるかというのを検討していければというふうに思います。

【村山金沢市長】

金沢市観光協会という組織がありますけれども、金沢市観光協会の組織に入っているのは、金沢市の飲食業や旅館業だけではなくて、例えば南砺市とか高岡市とか、他都市も入っていたりするんですね。金沢と結びつきを持ちたいというところがそれだけ多いということを感じています。

そして、私も大野地区、醤油のみならず、行列がついて買えないプリン屋さんとか、世

界で一番のジンを造る醸造所とか、本当に尖ったところがたくさん出てきているなと思っていまして、これらを一緒にして、そこにオーベルジュなどができたら、ぜひ泊まってみたいなと思っているところでもあります。

我々の組織の中で、企業誘致を行っている組織もあります。これまで工場誘致が主の部分でありましたけれども、観点を変えてみれば、どのような業態が必要なのかということを幅広く考えることもできるのかなと思っております。

一方で現状としては、あまりノウハウがありません。首都圏のホテルなどにはアタックはできるけれども、今のところそういったリストがないというのが現状ではあります。

ただ、金沢市のブランドをもって、どう金沢市域にとっていいものを持ってくるか。そして、いいものというのは、経済の振興だけではなくて、金沢市のブランド力をさらに高めることに役立つのであれば、連携ができる部分は大きいのではないかと思っています。

また、東京事務所などもありますので、あるいは誘客推進室なども連携しながら、可能性は探ってみたいと思っています。よろしくお願いいたします。

(4) 共通課題についての討議

地域公共交通網の整備促進について

「共通課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、

レジュメを参照願います。

※　ご意見・ご質問等はありませんでした。

(5) その他質疑応答

【大徳地区連合町会】

市は、公共交通というのは、全部北鉄に任せるおつもりなんですか。それともライドシェアとか、それからランランバスとか、ああいうふうなものに任せるつもりなのか。どっちにしても民間にやらせると採算が取れないから、どうしてもこちらの要望どおりには走っていただけない。だから、いっそのこと市でそういう事業をつくって、さっき言っていた消防団員とミックスにしたらいいんじゃないかと。

大体、バスの運転手だって走ってしまえば、しばらくの時間休むわけです。でも休んでいたって給料にならないから、そういう合間合間に消防団の仕事をたくさん入れて、一人一人の負担を少なくすれば、事業としてやっていけるんじゃないかと思うんです。

【村角都市政策局長】

ご提案、ありがとうございます。

公共交通をめぐる問題は、非常に課題が大きいところであります。北鉄のバスだけ、北陸鉄道さんだけに全てお任せしているわけではございません。北陸鉄道さんが持続的に公共交通のバス、鉄道線を担っていただくためにも、行政側としてどんなことができるのか。そのことは、ひいては市民の皆様の日頃の足を確保する、公共交通環境を充実させていくということにつながってくるというふうに考えています。

例えば、チケットレス、キャッシュレスの対応であったり、ユニバーサル対応であったり、そういったものを一つずつクリアしながら利便性を向上させて、そのことによってどんどん使っていただくことで、企業活動が回ってくるというふうに思いますので、そういった民間事業者であったり、あるいは市とすれば、先ほど言った地域運営交通であったり、あるいは金石、大野にもまちのりという公共レンタサイクルもございます。そういったものをうまくミックスしながら、市民の皆様の公共交通の利便性というものを引き続き検討していきたいというふうに考えています。

大きな課題感を持って取り組んでまいりますので、またどうぞよろしくお願いします。

【大野町町会連合会】

日曜日に金沢マラソンがあるということなので、せっかくなので金沢マラソンに関する質問で。今の走るルートなんですけれども、もうちょっと金石、大野辺りに見直すとか、そういうルートの見直しの計画はあるんでしょうか。なかなか交通の便で難しいと思うんですけれども、まちづくりに力を入れている金石とか大野とか、大徳地区のほうも横のつながりとか力を入れていますので。金沢の南側はちょっと発展しているけれども北は昔の町だよねみたいなイメージもあるし、そういうのも払拭するためにも北側、港沿いにルートをもう一回考え直す機会があればと思っております。その辺どうでしょうか。

【東文化スポーツ局長】

ご提案ありがとうございます。

金沢マラソンのコースにつきましては、様々なご意見がありまして、スタートとゴールと逆にできないかとか、金沢駅をゴールにできないかとか、そういうお話がありますが、

交通規制のことを考えるとなかなか難しいというのが現状であります。今年、海側環状道路が開通し、今までのコースを走ると海側環状道路を止めてしまわないといけないということで、止めるくらいならばコースにしてしまおうということで、一部をコースにさせていただく変更を行いました。

その他の部分についても様々なご意見がありまして、南部のほうをもうちょっと通れないかというお声もあるんですが、逆に通ったらどうなるかというと、移動が規制されて、交通規制の影響を多く受けて、やっぱり要らないわとかいう話もあります。

私たちとしては、絶えずコースはどうあるべきかを考えていますし、コースを実際に変更するとなると、地元の皆さん、警察、交通事業者を加えて、全ての皆さんのある程度のご理解、ご協力と我慢もしていただかなくてはいけないというのもありますので、要望としてはお伺いしますし、私も以前マラソンの課長をしていた時代に、港のほうを走れないかなと考えたこともございます。

そして、マラソンは来年10回大会を迎えますので、11回より後はどうしていくんだということをマラソンの担当者には伝え、そこを考えて、市民の皆さんに愛される大会であるべきだというふうに思っておりますので、また様々なご意見を頂戴したいと思います。その都度、また検討させていただきたいと思っております。

(6) 市長まとめ

【村山金沢市長】

その都度でお答えしたところもありますので、最後の公共交通の関係について触れながら、まとめをさせていただきたいと思います。

本日は、本当に幅広い分野について意見交換ができたと思っております。これは大徳、金石町、大野町だけの課題ではないものもそれぞれありまして、全地域で考えなければいけないというところも思いを致すことができたというように思いました。

最後の公共交通の関係でありますけれども、今、10年後の金沢に向けた都市像をつくっておりますが、この10年後が終わると、ゼロカーボンシティを目指すと言っている2050年。2050年の目標を国では設けていますけれども、自治体としてはもっと早く実現しなければいけないんじゃないかなというような問題意識を私どもは持っております。

そこに向けて、ゼロカーボンシティを目指すときにどうしていったらいいかということ。それにプラスして、持続可能な公共交通を維持していくためにどうしていったらいい

か。運転手不足もあるという中で、どのように配置をしていくのが最も望ましいかということを考える中、１つ目としては、やはり自家用車から脱却しなければいけない。あるいは電気自動車などへの移行をしなければならないというところ。自家用車から公共交通に移していくときにはどうしたらいいかということと、公共交通の事業者についても、北部地域で行っている「チョイソコ」のようなものは、バス事業者ではなくてタクシー事業者が運営をしているものもあります。ですので、公共交通はタクシーも含めて考える、プロの運転手が運転するものとして考えるという形になってきたときに、より大型化したタクシーをどう使うかというような議論になってくるかというように思います。そのタクシー事業者も含めた公共交通事業者の理解の下で、どう実現していくかということ。それがより効率的に、さらにはその事業者が運営できるように、これは一部、市の補助が入る段階も出てくるかもしれませんけれども、補助となるとすれば、運営の完全な補助ではなく、より利便性の高いような形の検討ということになっていくと思います。

様々な視点も考えながら、これからの先、不便をしないような形で、どう持続可能な方向性ができるか。非常に変数の多い方程式を解かなければいけない中でありますけれども、またご意見もいただきながら公共交通の在り方を考えていきたいと思っています。

いずれにしましても、平日の夜という中、そして各公民館の文化祭もあったり、またマラソンもあったりということで大変忙しい時期の夜にご参加をいただきました。その分、有意義な話ができたかと思いますし、またご意見を聞かせていただければと思ってございます。

本日は本当に長時間にわたりまして、ありがとうございました。